

自立支援協議会の運営と機能

○共通の目的を持つ

○情報の共有

○具体的に協働する

○地域の関係者によるネットワーク構築

- 情報機能：困難事例や地域課題等の情報共有と情報発信
- 調整機能：地域の関係機関によるネットワーク構築
困難事例への対応の在り方に対する協議、調整
- 開発機能：地域の社会資源の開発
- 教育機能：構成員の資質向上の場として活用
- 権利擁護機能：権利擁護に関する取り組みを調整する
- 評価機能：委託相談支援事業所の運営評価等

① 個別ケースでの困りごと・大変だったこと

- ・日曜日のヘルパーが見つからない
- ・ヘルパー事業所が少なく、ヘルパー数も減っている。
- ・デイサービスが少ない。
- ・2歳の重度心身障害児、入れるヘルパーがない。
- ・中学生の障害児、移動支援入れるヘルパーがない。
- ・身元保証人がいないケースが増えている
- ・中学3年生の子の進路について、本人の意向と母親の意向が違い、事業所としてどこまで介入したらいいのかわからない。
- ・精神障害者の方の住居探し、障害をオープンにするとみつからない。
- ・生活保護受給者で、保護系の担当者と合わなくても担当を変えられない。
- ・家族の中でキーパーソンがないため、家族との連携が取れない。
- ・計画相談がなんでも相談を受ける状況となっている。
- ・行動障害のあるケースの受け入れ先がない。ショートを希望するが、空きがない。
- ・母親の子供に対する理解が心配。子供に対して「こんなはずじゃなかった」と一般の人と比べる。
- ・移動支援のヘルパー不足。ヘルパーの高齢化。
- ・精神障害のある方で高齢化に伴い進退問題を伴うケース。本人の気持ちの問題で高齢施設に移ることができない。
- ・高額商品を買ってしまう。
- ・家族の相談場所がない。
- ・知的障害のある方で日中活動先に通所できない方→日中支援型GHの入居となる。
- ・母親から支援者に対して言葉での攻撃が強く、対応方法で困っている。
- ・GHに区役所や相談支援事業所から18歳未満の方の利用依頼が多い。
- ・児童相談所から入居までの落とし込みができていない中で入居したケース、一日で退所となった。
- ・福祉サービスにつながらない方からの相談。

例

- ・地域の「あるある事例」の共有
- ・各事例における個別支援ニーズの共通項は？
- ・地域の個別支援ニーズ
(見えないニーズ、見逃しているニーズ、見えにくいニーズ)
等

①地域の現状について・課題点

<東区・市の課題>

- ヘルパー不足、事業所が少ない。移動支援のヘルパー不足。
- ヘルパーの高齢化
- 精神障害の方、障害をオープンにすると住居が見つからない。
- 行動障害のあるケースの受け入れ先がない。短期入所の空きがない。
- 家族の相談場所がない。
- 母親の相談場所・・・基幹、区役所
- 家族会の会員と当事者の高齢化。情報収集・発信の困難さ。
- 精神障害者の相談について、行政一人でのケース対応の困難さ
- 虐待ケース・・・障害・高齢の他課が関わることでの対応の難しさ。

<当事者>

- 高額商品を買ってしまう。
- 精神障害のある方で高齢化に伴い身体症状を伴うケース。障害のGHでの対応が難しくなっている。
- 福祉サービスに繋がらない方の相談。

<家族支援>

- 中学3年生の障害児の進路・・・本人と母親の意向が違調整の難しさがある。
- 家族の中にキーパーソンがないため、家族との連携がとれない。
- 母親の子供に対する理解が心配。子供に対して「こんなはずじゃなかった」一般の人と比べる。
- 母親から支援者に対する言葉での攻撃が強く、対応に困る。

例

- 医療保健福祉教育領域の支援体制、連携
- サービスの量、サービスの質、フォーマル支援
- 生活支援の課題
- 他機関連携 等

<制度>

- 身元保証人のいないケースが増えている。
- 知的障害のある方で福祉サービスの利用に至らない方の入居先として日中支援型GHとなる。
- 児童相談所から入居までの落とし込みのできていないケース、一日で退所となった。
- GHに18歳未満の方の利用依頼が多い。
- 虐待の相談先が当事者に分かりづらい状況となっている。
- 事業所内で障害特性の違う方が混在することでの支援の難しさ
- 生活保護受給者、担当者と合わなくても変えられない。

<事業所・相談支援>

- 計画相談支援事業所がなんでも相談を受ける状況となっている。
- 就労系のサービス管理責任者の意識改革が必要。相談員の役割の理解不足。
- 事業所の人材定着、サービス管理責任者がすぐ変わる。
- 職員の質も問題。経験年数が長い方は謙虚さに欠けたり、未経験者もいる。
- 個別支援会議は必要だができていない。

- ・障害児の保護者への対応が難しい。

②地域の現状について

= わが街の強み =

例

・わが町のよいところ

等

【発表された意見（*発表は1グループ2つまで）】

<1グループ>

- ・坂が少なく、移動しやすい
- ・学校やボランティアが多く、地域交流が多そう。

<2グループ>

- ・徳川園等歴史的な古い町並みがあるところがいいところ。
- ・住民の人柄が穏やか。協力的に何かが進んでいく。

<3グループ>

- ・立地が良い。各区に行きやすい中心地。
- ・児童の福祉サービス事業所が増えている。マンション多くなっており、子供も増えている。

<4グループ>

- ・素敵で高級な家が多い。
- ・経済的に余裕があるため、8050、7040問題になってもわざわざサービスを使うところまでいかない。

【発表されなかった意見として】

- ・研修のしやすい場所。
- ・昔ながらのつながりがありそう。
- ・町内会が活発、自治会やボランティアに参加しやすい。
- ・大きな区ではないので小回りが利く。
- ・地盤が硬く災害に強い
- ・就労支援事業所が増えていて選びやすい
- ・名古屋ドームがある。
- ・治安がよさそう。
- ・虐待が少ない。

② 目標とする地域の在り方

<交流の場>

- 連携を取りたいけど交流の場がない。(区役所、病院、児相、権利擁護など) 交流の場を作りたい。
- 地域との交流の場、学生ボランティアとの交流の場があり、障害者のことを知ってもらう。

<普及啓発として>

- 区民の方と一緒にスポーツ体験会をする。(今年度開催されていたので続けてほしい)
- 大阪のおばちゃん化。地域で積極的に声掛けしてくれる人を増やす⇒福祉と連携。
- 精神障害者の方への対応について、民生委員さんや地域の方への勉強会を開催。
- 区内の大学、高校生、ボランティアさんが地域の支援者として動いてくれる。
- 民生委員に協議会に入ってもらいたい。地域の困りごとを知っている。

<社会資源>

- あるものを活用しながら、ないものを創り出す。
- 3障害すべての方が、気軽にふらっと行けるような場所があるといい。

<児童関係>

- 子ども食堂に来ている子供⇒ネグレクトの疑いがある場合、支援につながりやすいネットワークがあるといい。
- 協議会に学校の先生に入ってもらいたい。学校との連携が取れるといい。
- 放課後等デイサービスとしても学校と連携が取れるといい。

例

- 支援への当事者参加、住民参加ができる
- 困った時に気軽に相談・連携できる地域

等

③ これからはじめていくこと

協議テーマについて

<交流の場作り>

- ・ユニバーサルスポーツ、役所が地域交流の場を作る
- ・相談できる場所、交流できる場所を増やしたい。

<児童関係>

- ・子ども食堂の子供見守り⇒支援につながるネットワーク作り
- ・児童に関するネットワーク

<相談>

- ・若い子の相談が増えている。
- ・相談できる場所を増やしたい。

<家族支援>

- ・ご家族様の支援、家族の集まりが必要。

<協議会として>

- ・民生委員、学校に構成員として入ってもらい、連携をとっていく。

部会で取り組みたいこと

